

京都・鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡

- 1 所在地 京都市伏見区中島鳥羽離宮町
- 2 調査期間 一九九八年(平10)五月
- 3 発掘機関 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 吉本健吾・尾藤德行
- 5 遺跡の種類 集落跡・離宮跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～飛鳥時代、平安時代後期～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部・京都東南部)

京都市では、周知の遺跡の中で工事面積が狭小な場合、工事に伴い立会調査を行なっている。今回の調査は、基礎工事面積一六〇㎡

の掘削工事に伴う立会調査である。

鳥羽離宮跡は、平安京の朱雀大路より南方に延びる作道が鴨川と交差するあたりで、現在の名神高速道路の京都南インターチェンジの付近である。白河上皇は、一〇八六年(応徳三)、鳥羽

殿の造営に着手し、南殿・北殿・馬場殿・泉殿・東殿・田中殿の順に造営した。

これまでの発掘調査の成果から、調査地の北側に北殿の勝光明院と経蔵、南東に馬場殿(現在の城南宮)があったとされ、調査地はその間の池の中と推定される。基礎工事の掘削深は三・二mで、深さ一・五mまでの盛土の下に、八層の堆積層が観察できた。深さ一・九～三・〇mの第三～七層は、推定どおり湿地状の堆積であった。各層には植物遺体が混じり、特に第四・五・七層には多く含まれる。そのうちの第五層から鎌倉時代の土師器皿とともに、木簡が出土した。その下層の第六層からは平安時代後期の軒瓦などが出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) □億万

(72)×12×0.5 081

木簡は、上下ともに欠損しているが、上端にのみ三文字の痕跡が認められた。その下には文字がなく文末であることが確認できた。柿経の一部と思われ、「妙法蓮華経第一巻序品第一」の八二行目には「教諸菩薩 無数億萬」とある。

なお、釈読は井上満郎氏、西山良平氏、吉野秋二氏による。

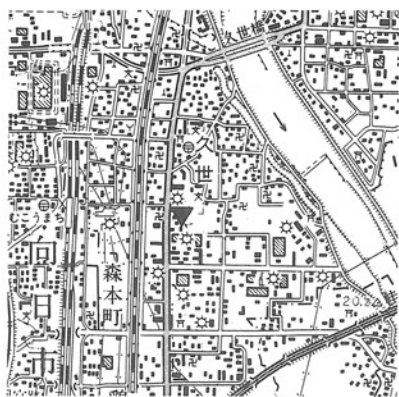
9 関係文献

京都市文化市民局『京都市内遺跡立会調査概報』平成一〇年度(一九九九年) (尾藤德行)



京都・大藪遺跡
おおやぶ

- 1 所在地 京都市南区久世殿城町
- 2 調査期間 一九九八年度調査 一九九八年(平10)七月～一九九九年四月
- 3 発掘機関 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 吉崎 伸・出口 勲・西大條哲
- 5 遺跡の種類 集落跡・居館跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期、奈良時代末、中世(一四世紀末～一六世紀)、近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

大藪遺跡は、京都盆地西部を南流する桂川右岸の沖積平野に位置し、標高一五m前後の微高地上に立地している。縄文時代から近世に至る複合遺跡である。調査は、京都市の街路建設に伴うもので、検出した遺構は弥生時代後期の集落、